

令和8年6月18日

西日本鉄道株式会社
代表取締役社長 林田浩一様

香住丘校区自治協議会
会長 倉員正治

「かしいかえん跡地の今後の利活用に関する第一次提言書」

拝啓 貴社におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、1956年の開園以来、65年にわたり地域に夢や憩いを提供し続けてこられた「かしいかえん」が、香住丘のまちの歴史とともに歩んできたことに、地域住民として深く感謝申し上げます。

私たち香住丘校区自治協議会は、かしいかえん閉園後の跡地の今後のあり方について、地域と調和したまちづくりに資するため、福岡市や貴社への要望活動を行うとともに「かしいかえん跡地利用懇話会」を設置し、地域・学校・行政・貴社との意見交換や情報収集を重ねてまいりました。

さらに、本年1月から3月にかけて、永きにわたって地域とともにあった「かしいかえん」という土地への敬意と民間企業の土地であるにもかかわらず、このような対話の機会が持てていることへの感謝を念頭に、「かしいかえん跡地と香住丘の未来ワークショップ」を全3回開催し、小学生から80歳代まで延べ154名の住民が参加し、多世代による対話を行いました。

ワークショップでは、教育環境の改善、多世代交流、緑や資源循環、歴史継承、三者（地域・行政・企業）の共働など、多様な視点から未来像が語られましたが、引き続き、このような対話の場を継続していくことも確認しました。

つきましては、第一次提言として、以下の事項についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

【第一次提言事項】

1. 地域との継続的な協議と共働の推進

今回のワークショップを通じて、「自分たちもまちづくりに関わり続けたい」という住民の強い意思が確認された。

今後も、地域住民・行政・西日本鉄道株式会社が継続的に対話を重ね、相互理解と共働のもとで、透明性のある検討プロセスを進めていただきたい。

2. 教育環境改善を最優先とした公共的活用の検討

香住丘小学校及び香椎第2中学校の過大規模校化や教室不足など、喫緊の教育課題の解決に向け、跡地を活用した学校整備等を含む公共的活用について、福岡市と連携しながら具体的な検討を進めていただきたい。

また、将来的な人口動向も見据え、福祉・地域交流などへの転用可能性を持つ複合的・柔軟な施設整備についても検討いただきたい。

3. 多世代が集い、交流できる「地域に開かれた空間」の形成

ワークショップでは、「寄り道したくなる場所」「顔が見える関係になれる場所」を求める声が多く寄せられた。

子どもから高齢者まで、多世代が日常的に集い、交流できる場として、広場・緑地・カフェ・図書機能・スポーツ機能等を含む、地域に開かれた空間形成をお願いしたい。

4. 「花園」の記憶を継承する緑豊かなまちづくり

「かしいかえん」という地域の記憶と歴史を未来へ継承するため、名称・モニュメント・歴史展示等を含めた継承の仕組みを検討いただきたい。

また、「花園」の名にふさわしく、自然や緑を豊かに残した、環境に配慮したまちづくりを進めていただきたい。

5. 資源循環・環境共生型の地域づくりへの協力

ワークショップでは、コミュニティガーデンやコンポスト等を通じた資源循環型のまちづくりへの関心が高まった。

地域住民が継続的に関わりながら、食・健康・環境を通じてつながることができる、持続可能な地域活動について、暫定利用を含め積極的な協力をお願いしたい。

6. 防災・安全性を重視した基盤整備

一時避難機能の確保や、防災動線・交通安全・道路整備等を含め、災害時にも安心できる安全性の高い空間形成をお願いしたい。

私たちは、一方的な要望ではなく、貴社とともに持続可能で誇りある香住丘の未来を築いていきたいと考えております。

今後とも、香住丘校区のまちづくりへのご協力をお願い申し上げます。

敬具